



PIF × SuMi TRUST

2022年8月31日

各位

三井住友信託銀行株式会社

**ポジティブ・インパクト・ファイナンス**  
**(資金使途を限定しない事業会社向け投融資タイプ)の契約締結について**  
**(サッポロホールディングス株式会社)**

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、サッポロホールディングス株式会社(代表取締役社長:尾賀 真城、以下「サッポロホールディングス」)に対し、国連環境計画・金融イニシアティブ(以下「UNEP FI」)(※1)が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」(※2)に則した「ポジティブ・インパクト評価(資金使途を限定しない事業会社向け投融資タイプ)」(以下「本評価」)および本評価に基づく「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の融資契約(以下「本件」)を締結いたしました。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスは、企業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト(ポジティブな影響とネガティブな影響)を包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資です。企業の活動、製品、サービスによるSDGs達成への貢献度合いを評価指標として活用し、開示情報に基づきモニタリングを行い、エンゲージメントを通じて活動を支援していくことが最大の特徴です。

本評価は、株式会社日本格付研究所(代表取締役社長:高木 祥吉)より評価にかかる手続きのポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性について第三者意見(※3)を取得しています。

当社では、ポジティブ・インパクト・ファイナンス等のサステナビリティに関するソリューションの提供により、SDGs達成に資するお客さまの事業活動を支援するとともに、お客さまの中長期的な企業価値の向上に貢献することを引き続き目指してまいります。

<サッポロホールディングスについて>

サッポロホールディングスは、2019年12月に「サッポログループ サステナビリティ方針」を策定するとともに、「グループ経営計画2024」においても「サステナビリティ経営の推進」を基本方針の一つに掲げています。「サステナビリティ重点課題と4つの約束」を軸として、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップのもとに、社会価値と経済価値の創出を両立させ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

<本評価の概要>

当社は、本件締結にあたり、サッポロホールディングスが SDGs 達成に対しインパクトを与える以下のテーマについて定性的、定量的に評価しました。

テーマ	内容	目標と指標 (KPI)	SDGs
『酒・食・飲』による潤いの提供	「酒・食・飲」を通じて、新しい価値を創造し、お客様に喜びと潤いを届ける。	<p><b>(a)安全・安心な品質の提供</b></p> <p>目標 2030 年に品質トラブルゼロを目指す</p> <p>指標 (KPI) 品質トラブルを起こさないための取り組み状況</p> <p><b>(b)新価値創造</b></p> <p>目標 新たな顧客価値を提供する</p> <p>指標 (KPI) 新価値を創造する研究や製品開発の状況</p>	  
社会との共栄	地域社会の一員として地域の発展や課題解決に貢献し、地域の皆様やサプライヤーの皆様とともにより良い未来を創造する。	<p><b>(a)地域への貢献</b></p> <p>目標 行政やパートナーと連携した「まちづくり」による地域の魅力向上</p> <p>指標 (KPI) まちづくりにおける行政等との連携による地域への貢献状況</p> <p><b>(b)持続可能な調達の推進</b></p> <p>目標 2030 年までに全ての主要調達先がサステナビリティ調達ガイドラインを満たす(サッポロビール、ポッカサッポロ)</p> <p>指標 (KPI) サステナビリティ調達ガイドラインを満たす調達企業の割合</p>	      
環境保全	自然の恵みを未来に受け継ぐため、事業の各段階において環境保全に取り組み、従業員一人ひとりが主体的に環境活動を推進する。	<p><b>(a)CO<sub>2</sub>排出量の削減</b></p> <p>目標 2050 年に自社拠点での CO<sub>2</sub>排出量ゼロ</p> <p>指標 (KPI) CO<sub>2</sub>削減量</p>	

		<p><b>(b) 3R の推進</b></p> <p><b>①水使用総量の削減</b></p> <p><b>目標</b> 生産工場における水使用総量を 2030 年までに 2013 年比で 10%削減する(サッポロビール、ポッカサッポロ)</p> <p><b>指標 (KPI)</b> サッポロビール、ポッカサッポロ生産拠点水使用量</p> <p><b>②循環型社会に対応した容器包装の使用拡大</b></p> <p><b>目標</b> 2050 年に循環型社会に対応した容器の 100%使用</p> <p><b>指標 (KPI)</b> 循環型社会への対応容器浸透状況(リデュース、素材代替の実績)</p> <p><b>③廃棄物再資源化率の向上</b></p> <p><b>目標</b> 廃棄物再資源化率の向上に努め、2030 年までに主要工場(※)では 100%を実現する((※)サッポロビール、ポッカサッポロ)</p> <p><b>指標 (KPI)</b> 廃棄物再資源化率(サッポロビール、ポッカサッポロ)</p> <p><b>④プラスチック使用量の削減</b></p> <p><b>目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2030 年までに化石燃料由来のワンウェイプラスチック製広告品類を国内で原則廃止する(サッポロビール)</li> <li>2030 年までに国内製造ワインのペットボトルへのリサイクル原料の使用割合を 50%とする(サッポロビール)</li> <li>2030 年までに販売する PET ボトル商品においてリサイクル原料の使用割合を 50%とする(ポッカサッポロ)</li> </ul>	       
--	--	---	--

		<p><b>指標 (KPI)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内における化石燃料由来のワンウェイプラスチック製広告品類の使用量 (サッポロビール)</li> <li>・ 国内製造ワインのペットボトルへのリサイクル原料の使用割合 (サッポロビール)</li> <li>・ 販売する PET ボトル商品におけるリサイクル原料の使用割合 (ポッカサッポロ)</li> </ul> <p><b><u>(c)気候変動に耐える品種開発</u></b></p> <p><b>目標</b>  様々な地域で良質なビール原料の安定的な生産の実現</p> <p><b>指標 (KPI)</b>  気候変動に耐える品種開発の進捗状況</p>	
--	--	--	--

(※1) 国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP FI)

国連環境計画 (UNEP) は、1972 年に「人間環境宣言」および「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関。UNEP FI は、UNEP と 200 以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992 年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展と ESG (環境・社会・企業統治) への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています。

(※2) ポジティブ・インパクト金融原則

UNEP FI が 2017 年 1 月に策定した、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けた金融の枠組。企業が SDGs 達成への貢献を KPI で開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導くもの。

融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認します。

(※3) ポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性についての第三者意見

株式会社日本格付研究所のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

以 上